

小特集—誌上ビギナーズセミナー—

小特集「誌上ビギナーズセミナー」 にあたって*

大川 茂樹 (千葉工業大学/ビギナーズセミナー実行委員長)**・

荒井 隆行 (上智大学/音響教育調査研究委員長)***

日本音響学会では、平成 20 年秋季研究発表会 (於九州大) 開催時より、発表会に併設して毎回「ビギナーズセミナー」を実施し、本年 (平成 22 年) 春季研究発表会で第 4 回目を迎えた。また、これとは別に、遡ること 12 年前の平成 10 年 (1998 年) より、毎年夏休み期間を利用して「サマーセミナー」を実施し、こちらは本年で第 13 回目を迎えた。いずれも主催は本学会事業委員会及びビギナーズセミナー実行委員会であり、平成 19 年より音響教育調査研究委員会も共催として加わっている。

これらのセミナーの主旨は、音響学の世界で研究を始めたばかりの、あるいはこれから研究を始める学生・企業の新入社員などの初学者を対象に、音響学全般にわたる学術・研究分野について幅広く、かつ分かりやすく知っていただくというものである。初学者のみならず、すでに過去に学んだはずの既習者にとっても、初学者向けに話される内容はその人自身にとってもよい復習の場となり、学び直すだけでなくより深い理解につながることも少なくない。また、隣接する分野について新たに学びたいという人もいる。そのようなことから、いずれのセミナーにも初学者から既習者までかなり幅の広い方々に参加いただいている。

特に夏のサマーセミナーでは、音響学会の各研究分野 (研究委員会の各分野) をほぼ網羅するような時間割を組んでいる。最近では、副題を「基礎と最近のトピックス」として、基礎的な話から最新の話までをカバーするよう、講師の先生方にも工夫していただきながら、セミナーとしての深みも

追究してきている。各大学で音響に関係する講義が減少傾向にある中、このようなセミナーで音響分野に関する講義をまとめて聞けることは、多くの参加者にとって貴重な機会となっていることも事実であろう。また、いわゆる講演 (レクチャー) 形式に加え、「見て・聞いて・触れて分かる」仕組み、すなわち実験機材等を用いたデモンストレーションやコンピュータ・シミュレーションなども導入し、参加者より好評を得ている。それらは、貴重な動画を解説付きで見ることができたり、本物の蓄音機を実際に再生し試聴することができたり、実物の特殊なスピーカから音を出しながらのデモンストレーションがあったり、コンピュータによる音響シミュレーションを見ながら音響理論の確認ができたりなど、様々である。

研究発表会で開催されるビギナーズセミナーでもその基本理念は同じであり、講師の方々による工夫は様々で、聞いていて飽きない講義ばかりである。春季発表会に併設して行われる回では、原則としてサマーセミナーでも行われている体験型実習のスタイルを取り入れることとし、これまでに超音波モータの原理を理解するための振動で回転するおもちゃの工作や、母音が出る声道模型の工作、騒音計の使い方に関する実習などが実施された (図-1 参照)。

本小特集では、過去にビギナーズセミナー及びサマーセミナーで実際に講演いただいた先生方へお願いし、学会誌上で擬似的にビギナーズセミナーを実施しようと試みた。もちろん、誌面のみでは講演の雰囲気や「見て・聞いて・触れて」の側面を体現することはできないが、しばしば企画掲載される「やさしい解説」と合わせて、音響学の初学者あるいは改めて基礎を学びたい方々の役に立てば幸いである。大学等の講義で音響学の時間が少なくなっている状況において、重宝していただけるものと考えている。

* Foreword to the special issue “Beginners’ Seminar in the ASJ Journal.”

** Shigeki Okawa (Chiba Institute of Technology, Narashino, 275-0016)
e-mail: okawa.shigeki@it-chiba.ac.jp

*** Takayuki Arai (Sophia University, Tokyo, 102-8554)
e-mail: arai@sophia.ac.jp

上述のとおり、「サマーセミナー」はすでに13回を数えており、延べ参加者数は1,000名を超えた。その多くは学生(大学院生・学部生)であるが、社会人の参加者も毎回少数ながらおり、2泊3日の合宿形式のセミナーならではの雰囲気は、すでに音響学会の夏の風物詩的行事になっている(図-2参照)。

ご承知のとおり、音響学の分野は、超音波、電気音響、音声、騒音・振動、建築音響、聴覚、音楽音響、アコースティックイメージング(以上いずれも研究委員会を設置)と多岐にわたる。個々の分野に関する入門書あるいは解説記事、チュートリアルレクチャー、技術講習会などの催しは盛んに出版・実施されているが、それらを網羅するセミナーを実施することは簡単なようで難しい。なぜなら、参加者の多くはすでに自身の研究分野を持っており、他分野の講演は時として別世界のものと捉えてしまいがちだからである。

サマーセミナー開始当初、運営側もその点を心配し、果たして学会の恒例行事として定着するかどうか甚だ自信がなかったことをここで暴露しておくが、結果的にはむしろ他分野のチュートリアルレクチャーから自分の研究のヒントを得るという場面も少なくない。ここ数年、研究発表会においても「分野横断型スペシャルセッション」が盛んに企画実施されているのと同様、自身の研究分野は大切にしつつ、周辺分野・隣接分野から有益な情報を得ることも重要である。特に最近の研究は1つの分野にとどまることなく、複数の分野にまたがって展開されることが増えてきている。本小特集もまた、ビギナー(初学者)向けのやさしい解説であると同時に、改めて広範な音響学の分野に目を向けていただくきっかけとなって欲しい。

今回執筆をお願いしたのは次の4名の方々である。

- 「波動方程式から理解する音響学」：尾本章先生(九州大)；平成20年秋季研究発表会におけるビギナーズセミナーより。
- 「音を聴くしくみ」：平原達也先生(富山県立大)；平成16年及び平成17年サマーセミナーより。
- 「建築音響の基礎理論—音を生かす・音を抑える空間のつくり方—」：坂本慎一先生(東京大)；平成22年他サマーセミナー及び平成21年秋季研究発表会におけるビギナーズセミナーより。
- 「音楽はなぜ感情に訴えるのか？」：山田真司先

生(金沢工業大)；平成22年他サマーセミナー及び平成21年秋季研究発表会におけるビギナーズセミナーより。

いずれの記事も、80~90分で実施したチュートリアルレクチャーの内容を6ページ程度に凝縮していただいたものであるため、たいへん内容の濃い解説記事となっている。むしろ、数回に分けて掲載するのがふさわしい記事もあると思われるが、「誌上ビギナーズセミナー」の企画が継続できると嬉しく思う。

読者におかれては、本小特集では十分に伝え切れない部分を、今後も引き続き開催する予定のビギナーズセミナーあるいはサマーセミナーにご参加いただくことにより、体験的に学習していただくと共に、後輩諸氏に対してもこれらのイベントを周知いただければ幸いである。また、大学等での音響学に関する講義に本小特集記事がご活用いただければ嬉しい。

末筆ながら、過去のビギナーズセミナーとサマーセミナーの開催に尽力いただいた実行委員諸氏、原則としてボランティアベースでの講師を快くお引き受けいただいた先生方に御礼申し上げます。



図-1 サマーセミナーでの声道模型工作実習の様子



図-2 サマーセミナー講義風景